

報道関係者各位

株式会社 共立総合研究所

「2014年度 新入社員の意識調査(職業観)」

株式会社 共立総合研究所（岐阜県大垣市郭町2-25 取締役社長 森秀嗣）は、標題の調査結果を取りまとめましたのでご案内します。

《要約》

職業観について

今年度の注目点：

**男性は「積極派」に、女性は「現実派」に
男女で傾向が分かれる**

■ 就職先の選択基準

男女とも「業種・事業内容」「雰囲気・イメージ」に加え、安定性や待遇も重視

■ 将来就きたい地位

男性は1位「管理職志向」が再び上昇、2位「スペシャリスト志向」が低下
女性は1位「スペシャリスト志向」が上昇、2位は再び「一般社員志向」

■ 上司・先輩との人間関係

男性は「積極派」に、女性は「ほとほと派」に分かれる

■ 入社の際の不安

上位2項目の「上司・先輩との人間関係」「業界知識・業務内容」が男性は上昇、
女性は低下

■ 初給与の使い道

「家族に感謝」が7年連続で今年度も1位
男性は「自分の物を買う」、女性は「預金する」の上昇が目立つ

資料配布：大垣市政経済記者クラブ、名古屋金融記者クラブ

【本件に関する問合せ先：共立総合研究所 調査部 いちき 市来 圭 TEL 0584-74-2615】

調査概要

当社では、大垣共立銀行がお取引先企業の新入社員向けに開催している研修会の参加者を対象として「新入社員の意識調査」を実施している。今年も、例年と同じく「就職する際の選択基準」や「将来就きたい地位」等の質問を行った。

- (1) 調査対象：岐阜県・愛知県・三重県・滋賀県所在の企業 302 社の新入社員
- (2) 調査期間：2014 年 3 月 17 日～4 月 8 日
- (3) 調査方法：大垣共立銀行主催の新入社員研修会受講者(1,190 名)に無記名方式で実施
- (4) 有効回答者数：1,157 人(有効回答率 97.2%)
- (5) 回答者属性：

		全体	男性	女性
有効回答者数		1,157名	612名	545名
平均年齢		21.4歳	21.6歳	21.3歳
最終学歴	高校卒業	34.5%	34.4%	34.6%
	専門学校卒業	9.7%	9.8%	9.6%
	短期大学卒業	4.8%	1.5%	8.5%
	4年制大学卒業	47.3%	49.0%	45.4%
	その他	3.7%	5.2%	2.0%
居住地	岐阜県	46.2%	47.0%	45.2%
	愛知県	42.7%	41.8%	43.7%
	三重県	3.0%	3.0%	3.1%
	滋賀県	2.0%	1.5%	2.6%
	その他	6.1%	6.7%	5.4%
業種	建築業	7.4%	9.5%	5.0%
	製造業	37.0%	44.4%	28.7%
	卸売業、小売業	17.1%	13.7%	21.0%
	医療・福祉	9.4%	5.1%	14.3%
	サービス業	11.4%	9.1%	14.0%
	その他	17.7%	18.2%	17.0%

(注)端数を四捨五入しているため、合計は100%にならない場合がある。

「職業観について」

(1) 就職先の選択基準

～男女とも「業種・事業内容」「雰囲気・イメージ」に加え、安定性や待遇も重視～

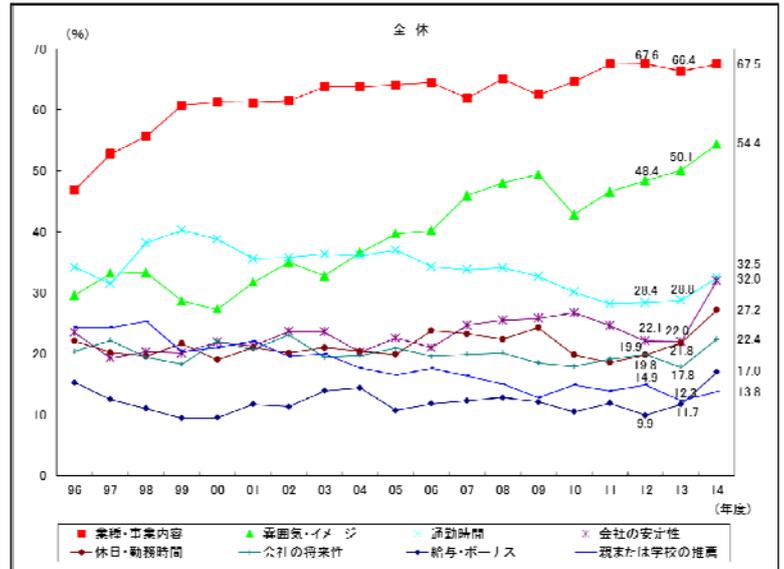
「入社を決めるにあたって何を重視しましたか（3つまで選択）」と尋ねたところ、1位は「業種・事業内容」（67.5%）、2位は「雰囲気・イメージ」（54.4%）、3位は「通勤時間」（32.5%）となった（図表1）。

今年度も「業種・事業内容」を重視する傾向は変わらず、加えて「雰囲気・イメージ」を重視するようになってきた最近の傾向も変わらなかった。

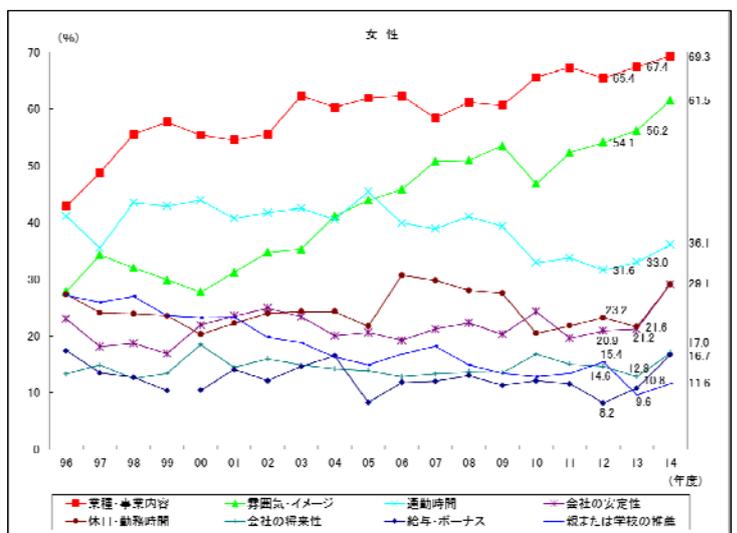
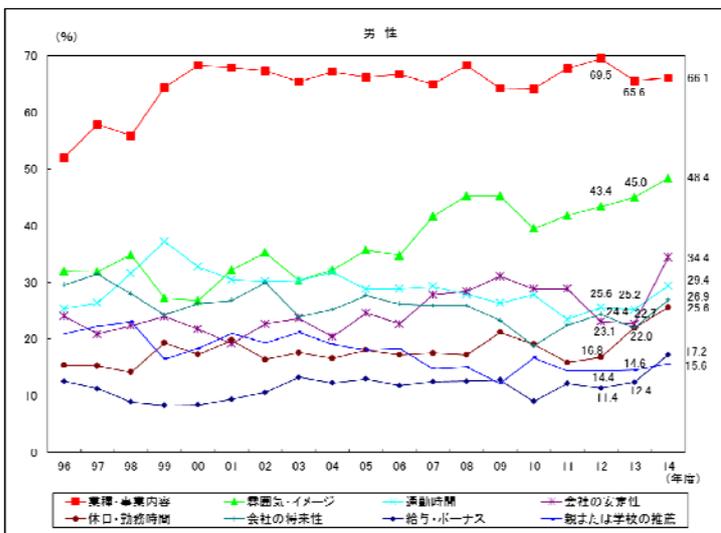
4位の「会社の安定性」はここ数年低下していたが今年度は大きく伸びた。男女別にみても、男女とも「会社の安定性」の伸びが顕著だった（図表2）。他にも「休日・勤務時間」や「給与・ボーナス」も伸びており、安定性や待遇も重視する姿勢が強まった。

今年度は、後述するように将来就きたい地位で特に男性に管理職志向が強まっていることからもうかがえるように、同一企業で働き続けることへの志向が高まりつつあり、従来からの「業種・事業内容」や「雰囲気・イメージ」を重視する傾向に加えて、会社の安定性や待遇にも注目が集まったと考えられる。

図表1：就職先の選択基準（全体での上位8項目）



図表2：就職先の選択基準（全体での上位8項目の男女別推移）



(2) 将来就きたい地位

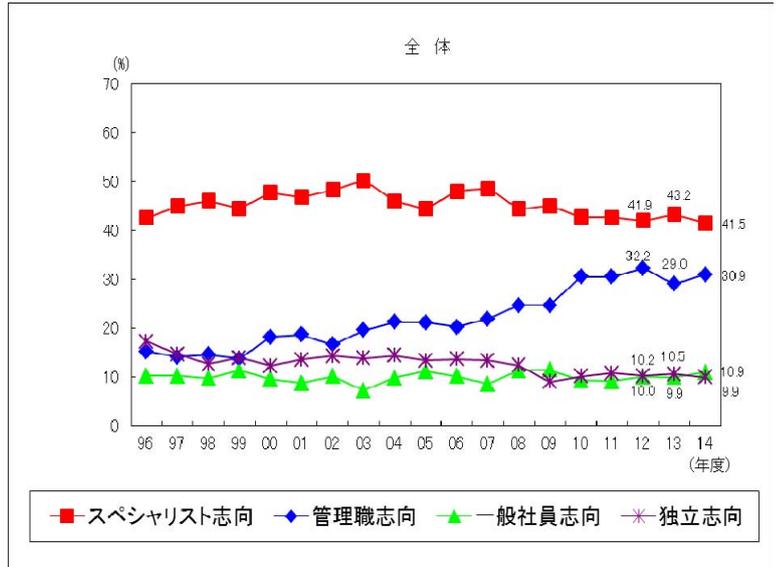
～男性は1位「管理職志向」が再び上昇、2位「スペシャリスト志向」が低下
 女性は1位「スペシャリスト志向」が上昇、2位は再び「一般社員志向」～

「あなたは将来どんな地位に就きたいですか(1つだけ選択)」と尋ねたところ、「肩書きはなくても、特殊能力・技能のある社員(以下:スペシャリスト志向)」(41.5%)が例年と同じく1位となった(図表3)。2位の「肩書きのある社員(以下:管理職志向)」(30.9%)を目指す傾向は、2年ぶりに上昇した。

男女別にみると、男性では「管理職志向」(45.9%)が2年ぶりに上昇し、「スペシャリスト志向」(26.5%)が再び下落した(図表4)女性では例年と同じく「スペシャリスト志向」(58.3%)が圧倒的に強かった。2009年度以降上がり続けていた「管理職志向」(14.2%)が今年度は下がり、「肩書きはならない(平社員)(以下:一般社員志向)」(15.8%)が2位となった。

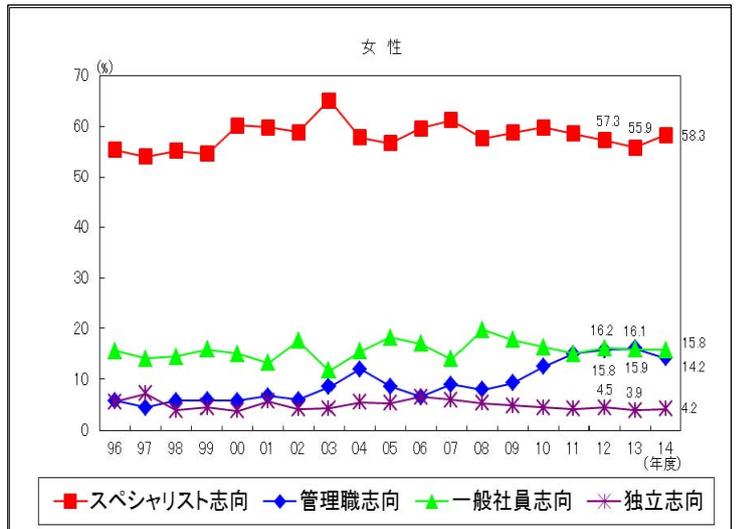
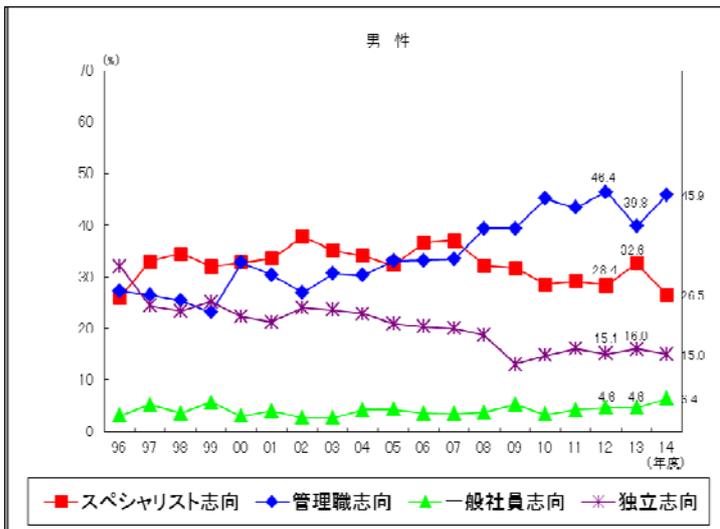
今年度は男性が会社で働き続ける志向が強まった一方、女性の活躍への社会的な期待の高まりとは裏腹に女性は会社で働き続けるとしても管理職を目指さない、より「現実主義的」な傾向に戻り、男女で傾向が分かれた。

図表3: 将来就きたい地位(全体)



(注) スペシャリスト 肩書きはなくても、特殊能力・技能のある社員
 志向…
 管理職志向… 肩書きのある社員
 一般社員志向… 肩書きはならない
 独立志向… 社長、あるいは独立して自分の会社・店を持つ

図表4: 将来就きたい地位(男女別推移)



(3) 上司・先輩との人間関係

～男性は「積極派」に、女性は「ほどほど派」に分かれる～

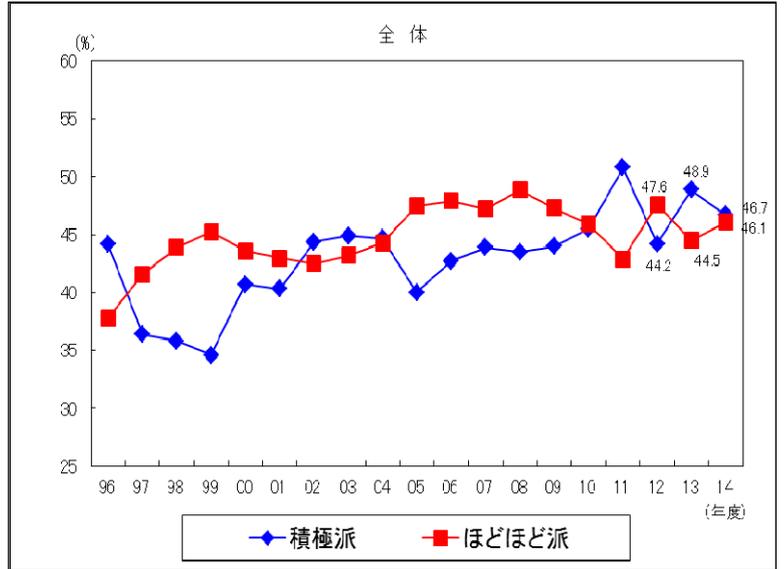
「上司・先輩との人間関係はどのように考えていますか（1つだけ選択）」と尋ねたところ、昨年度大きく上昇した「公私にわたって積極的に（以下：積極派）」（46.7%）が低下し、「義理を欠かない程度（以下：ほどほど派）」（46.1%）が上昇した（図表5）。

男女別にみると、男性では昨年度大きく上昇した「積極派」（51.9%）と昨年度大きく低下した「ほどほど派」（41.5%）とも今年度は大きく変わらず、「積極派」が「ほどほど派」を大きく上回ったままであった（図表6）。

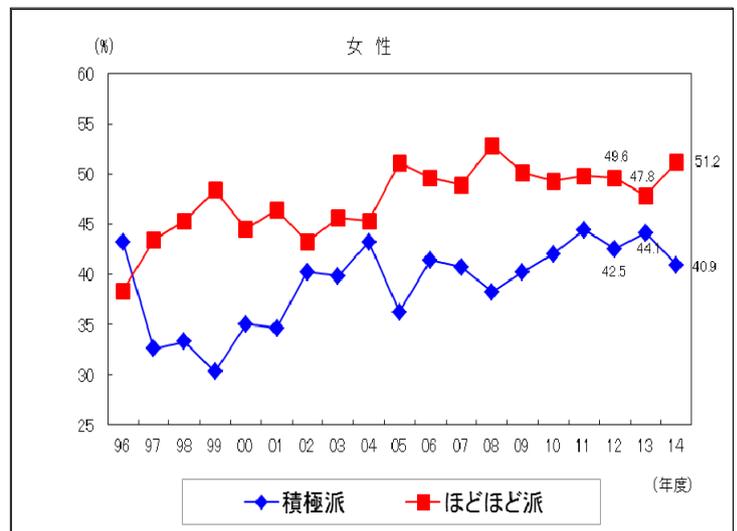
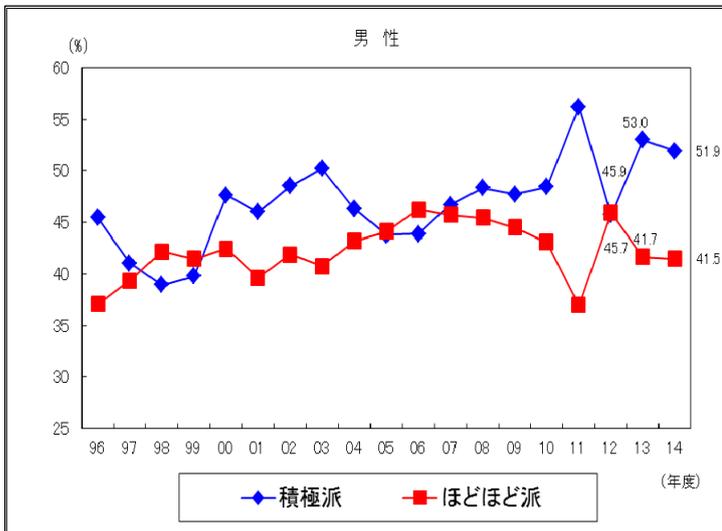
一方、女性では1位の「ほどほど派」（51.2%）が上昇し、2位の「積極派」（40.9%）が低下したことで両者の差が広がった。

このため、男性は「積極派」に、女性は「ほどほど派」に傾向が分かれた。

図表5：上司・先輩との人間関係



図表6：上司・先輩との人間関係（男女別推移）



(4) 入社の際の不安

～上位2項目の「上司・先輩との人間関係」「業界知識・業務内容」が
男性は上昇、女性は低下～

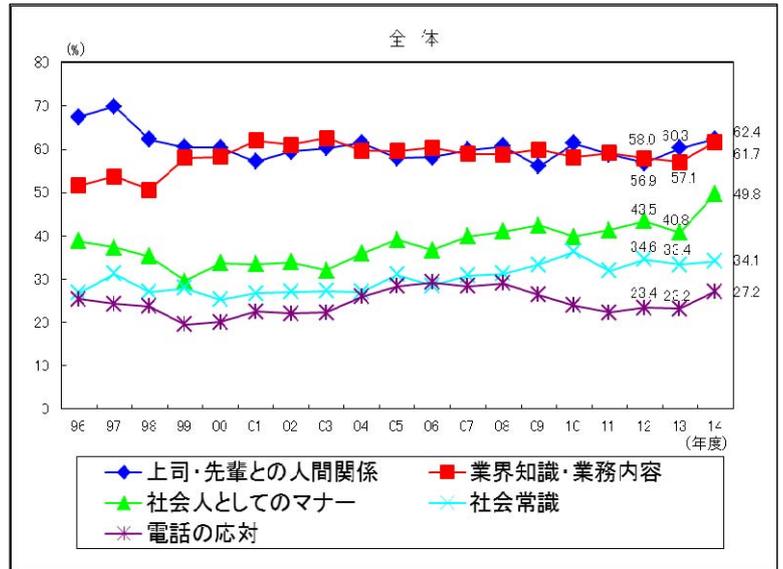
「入社にあたって不安に思うことは何ですか（3 つまで選択）」と尋ねたところ、「上司・先輩との人間関係」（62.4%）が上昇し、2年連続で1位になった（図表7）。次いで「業界知識・業務内容」（61.7%）が僅差で2位となり、3位の「社会人としてのマナー」（49.8%）が大きく上昇した。

男女別にみると、男性では1位の「業界知識・業務内容」（66.2%）と2位の「上司・先輩との人間関係」（62.5%）がともに上昇した（図表8）。

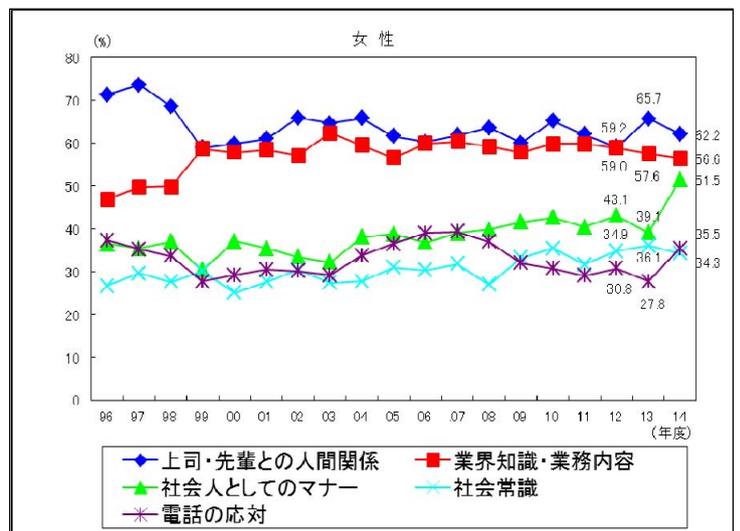
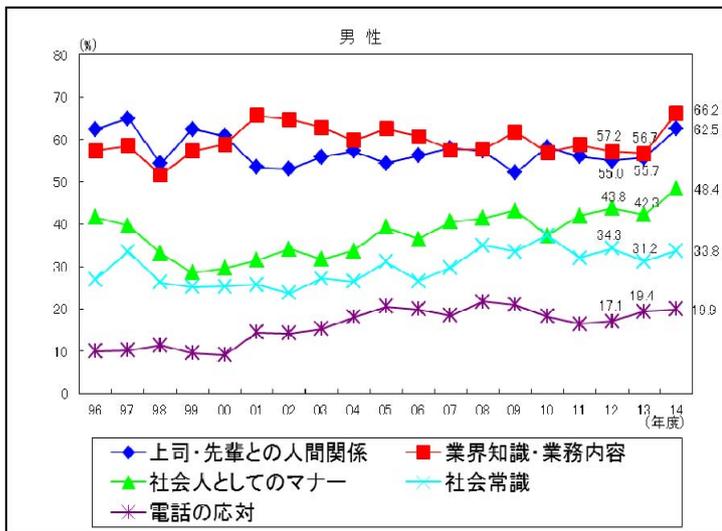
一方、女性では「上司・先輩との人間関係」（62.2%）が今年度も1位にとどまったものの、昨年度から低下した。また、2位の「業界知識・業務内容」（56.6%）もわずかに低下した。

ここでも男女の傾向が分かれ、男性では上昇した「業界知識・業務内容」「上司・先輩との人間関係」が女性では低下した。

図表7：入社の際の不安（全体での上位5項目）



図表8：入社の際の不安（全体での上位5項目の男女別推移）



(5) 初給与の使い道

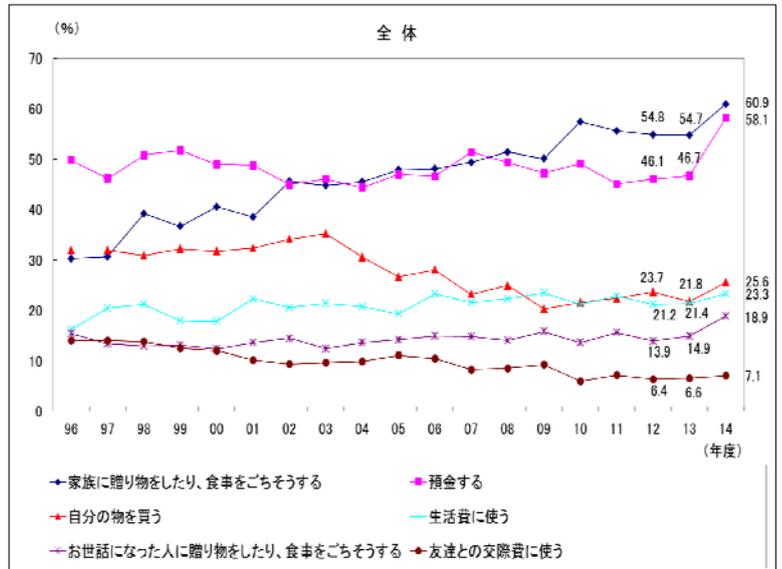
～「家族に感謝」が7年連続で今年度も1位、男性は「自分の物を買う」、女性は「預金する」の上昇が目立つ～

「初給与をどのように使いますか(2つまで選択)」と尋ねたところ、1位の「家族に贈り物をしたり、食事をごちそうする(以下:家族に感謝)」(60.9%)と2位の「預金する」(58.1%)がともに上昇した(図表9)。

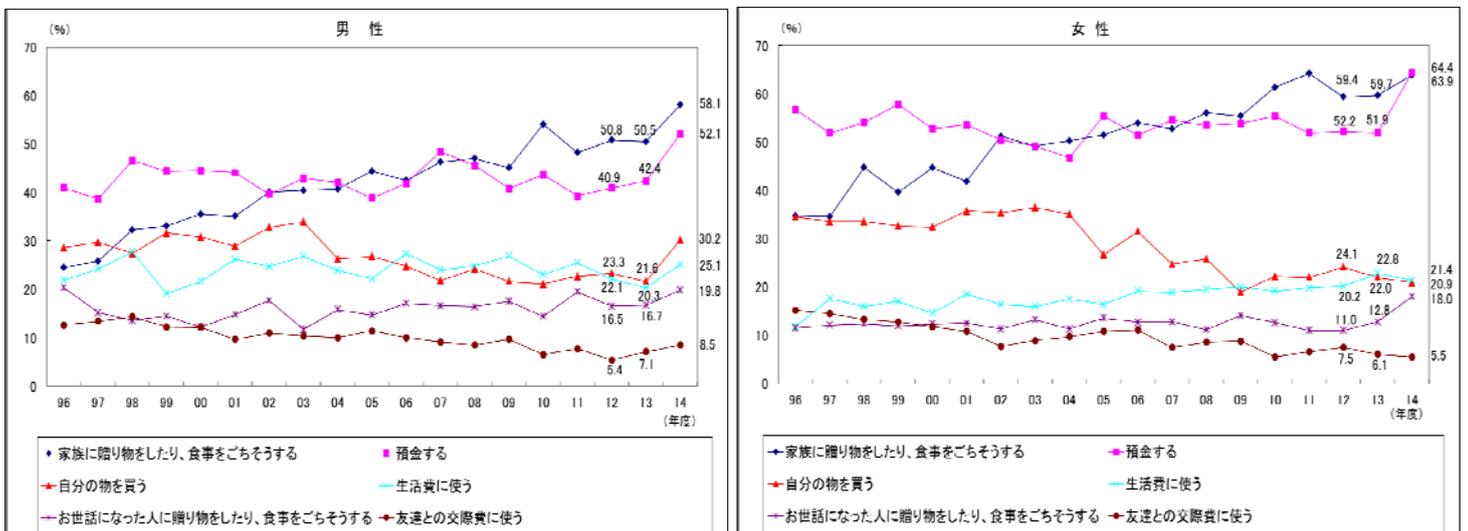
男女別にみると、男女とも両項目が上昇したが、特に女性では「預金する」(64.4%)が大きく上昇し、「家族に感謝」(63.9%)を7年ぶりに上回り、1位となった。これより前述した「一般社員志向」が再び強まっていることとも合わせて、「現実主義的」な傾向が強まっていると言える(図表10)。

また、男性で目につくのは、3位の「自分の物を買う」が2003年からの低下・横ばい傾向から一転し、大きく上昇した。一方、女性では「お世話になった人に贈り物をしたり、食事をごちそうする」が伸びており、ここでも女性の「現実主義的」な傾向がうかがえた。

図表9: 初給与の使い道(全体での上位6項目)



図表10: 初給与の使い道(全体での上位6項目の男女別推移)



(6) まとめ

今回の調査では、男性と女性の傾向がはっきり分かれた。男性は「管理職志向」が強まるとともに、上司・先輩との人間関係でも「積極派」が昨年度より若干減ったとは言え、依然多数を占め、また、初給与の使い道でも「自分の物を買う」が上昇するなど、積極的な姿勢が目立った。入社の際の不安で「業界知識・業務内容」や「上司・先輩との人間関係」が上昇したのも、仕事に対しての積極的な姿勢の裏返しと言える。

一方、女性では「管理職志向」が低下し、上司・先輩との人間関係で「ほどほど派」が多数を占め、初給与は「預金」するなど「現実主義的」な傾向が目立った。

近年、「草食男子」「肉食女子」と言われるように男性の消極性、女性の積極性が注目されてきたが、今年度の新入社員アンケートの結果からは逆の傾向が見て取れた。

以上